全附Ｐ連 令和８年度 附属学校・ＰＴＡ活動 情報紹介シート

所属学校名	横浜国立大学附属鎌倉小学校		
役　職	ＰＴＡ会長	氏　名	後藤　健人
活動名称	**保護者の「日常」が、子どもの「探究」をひらく** ～知恵や技術のシェアリングでつくる持続可能な教育共創～ 「ＫＡＭＡＳＨＯ　ＫＯＴＯＮＯＨＡ　ＬＩＮＫ」		

１．背景と課題：探究の高度化と、多忙な先生方を支える仕組みづくり

ユネスコスクールとして ESD（持続可能な開発のための教育）を推進する本校では、児童の探究心が高まる一方、現代社会のリアルな課題を深めるには教室の外にある「生きた知見」が欠かせません。しかし、多忙を極める先生方が単元ごとに外部講師や素材を一から開拓・調整するのは極めて大きな負担でした。そこで PTA 主導で、保護者の専門知識・スキルを学校の教育研究リソースとして可視化する知恵のシェアリング基盤『ＫＡＭＡＳＨＯ　ＫＯＴＯＮＯＨＡ　ＬＩＮＫ（コトノハ・リンク）』を始動しました。

２．仕組み：参加のハードルを下げる「４つのリンク形態」

「できる人が、できる時に、できる形で。」を合言葉に、来校講義に限定しない４つのグラデーション型協力スタイルを用意しました。現在、登録件数は 100 件を突破しています。

●ナレッジ・リンク（情報の提供）
来校不要。仕事で扱う写真・動画・サンプル品などを先生の教材づくり用に提供。

●テキスト・リンク（文字での回答）
子どもの素朴な疑問に対し、保護者がスキマ時間にメール等でプロの視点から回答。

●オンライン・リンク（画面越しの対話）
移動時間ゼロ。職場の研究室や海外拠点からオンライン中継で子どもたちと対話。

●ライブ・リンク（教室での対話・実技）
体育館や教室でのワークショップ、実技指導など、熱量を直に届ける対面指導。

３．実践事例：子ども発案「茶道クラブ」で結実した教育共創

本校では毎年、４～６年生が話し合ってクラブ活動を決めます。今年度は児童の主体的な発案で「茶道クラブ」が立ち上がりましたが、例年開設されていないため先生方は専門講師の確保に頭を抱えていました。そこで本システムを照会したところ、茶道の嗜み・免状をお持ちの保護者が登録してくださっており、打診のうえ即座に外部講師就任が実現しました。

「やりたいことを本物から学べた児童」「リサーチや交渉負担なく良質な人材に出会えた教員」「特技が学校教育の役に立った保護者」の三方よしが成立し、知恵のシェアリングの真価が実証されました。

４．持続可能な運営を支える「６つの安心ルール」

学校と保護者が連携する際、最も留意すべきは現場の心理的・実務的負担を増やさない設計です。本校では初期段階から以下のルールを設けて運用しています。

●**教員の負担軽減**　名簿は全体公開せず、ＰＴＡが調整窓口を支援して先生方の連絡事務を最小化。
●**指導の主導権は先生に**　保護者は「生きた素材」の提供者とし、授業構成は指導計画に合わせる。
●**個人情報の非公開管理**　登録データは学校管理職とＰＴＡ本部のみで厳格に非公開運用。
●**特定者への集中防止**　「年間協力上限」や繁忙期の「受付停止」を選べるステータス制を導入。
●**日常の知恵を等しく歓迎**　専門資格だけでなく、地域の歴史や趣味・特技等も価値ある知恵として募集。
●**原則ボランティア制**　協力は無償を基本とし、材料実費等が発生する場合は事前協議で対応。

５．おわりに：ＰＴＡは「作業の手伝い」から「教育の共創パートナー」へ

今年度、本校ＰＴＡでは毎年慣例となっていた「お手伝い係」の選出を見直し、２年に１度への参加へと負担を大幅に軽減しました。義務的な労力の負担を減らしたうえで、新たにスタートしたのがこの『ＫＯＴＯＮＯＨＡ　ＬＩＮＫ』です。大人の何気ない日常や仕事の経験も、子どもたちの感性をくぐれば輝く教材へと生まれ変わります。従来の行事警備や受付といった「作業のお手伝い」から一歩踏み出し、保護者の知見を学校教育と結びつけることで、ＰＴＡは学校と並走する「共創パートナー」になれると確信しています。今後も附属学校ならではの新たな教育共創モデルとして全国に発信・共有してまいります。

KAMASHO KOTONOHA LINK
コトノハ・リンク